

## 修理工事こぼれ話③⑤ 後補の基礎石についての考察

前回のコラムでは、造営時の石工さんや基礎に使われた当初の石材について紹介しました。阿蘇神社楼門は現在までに何回か修理されており、中でも昭和 18～20 年（1943～1945）に行われた修理では、新たに基礎石が加えられたり既存のものと取り替えられています。今回は、その後補の基礎石について紹介します。

### 1. 概要

まず、この後補の基礎石はどんな石材なのでしょう。

昭和 18～20 年の修理というのは、内務省の直営で行われた工事で、その他にも神殿の修理や、拝殿・翼廊・神輿庫・神饌所の新築が行われています。この拝殿・翼廊・神輿庫・神饌所というのが平成 28 年熊本地震によって被害を受けた建物で、基礎石も現存しています。

ここで、この拝殿周りの基壇（きだん）を見ると、白っぽい石が使われていることがわかります。これが内務省直営工事で使用された石材だということで楼門の方も見ていくと、石造唐居敷（からいしき）や参道石と呼んでいる中央の敷石、正面の石階段にもこの白っぽい石が使用されていました。楼門の修理歴から考えても、これら楼門の白っぽい石も内務省直営工事で使用された石材であるとみなして良さそうです。ちなみに、今回の工事で来ていた石工さんによると、砂岩ではないかということでした。



楼門 石造唐居敷周り 材種は異なりますが、同工事で追加された御影石の基礎石もあります。



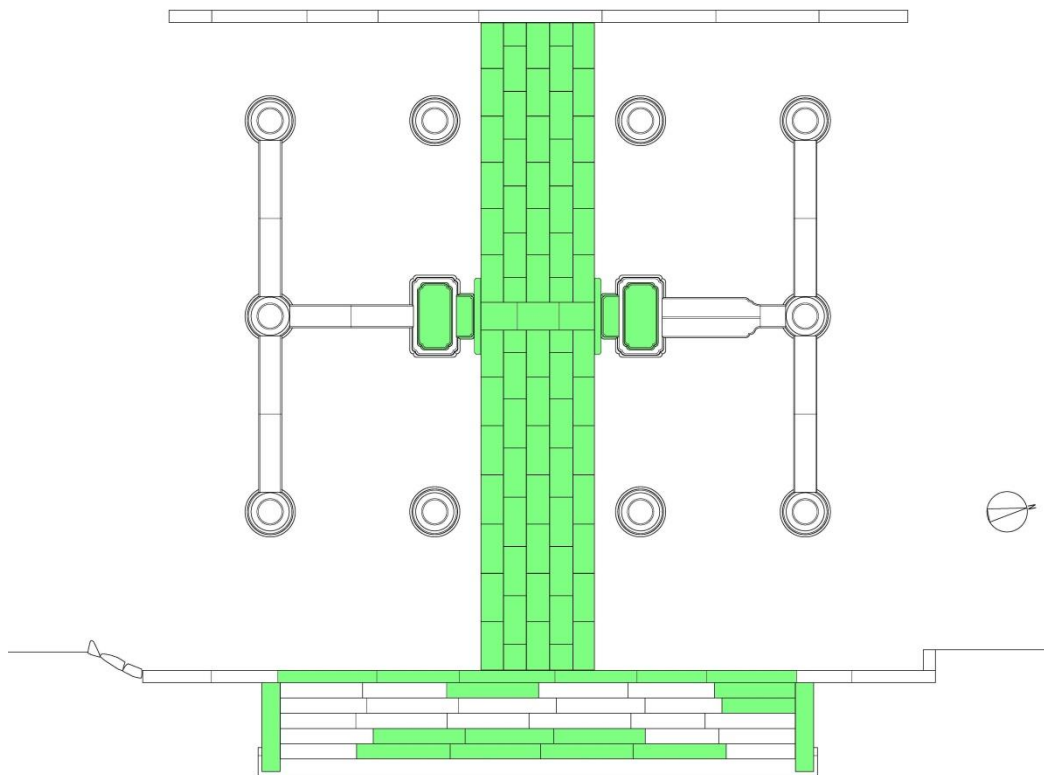
拝殿周り 基壇  
昭和 23 年に竣工した建物群の基礎になります。



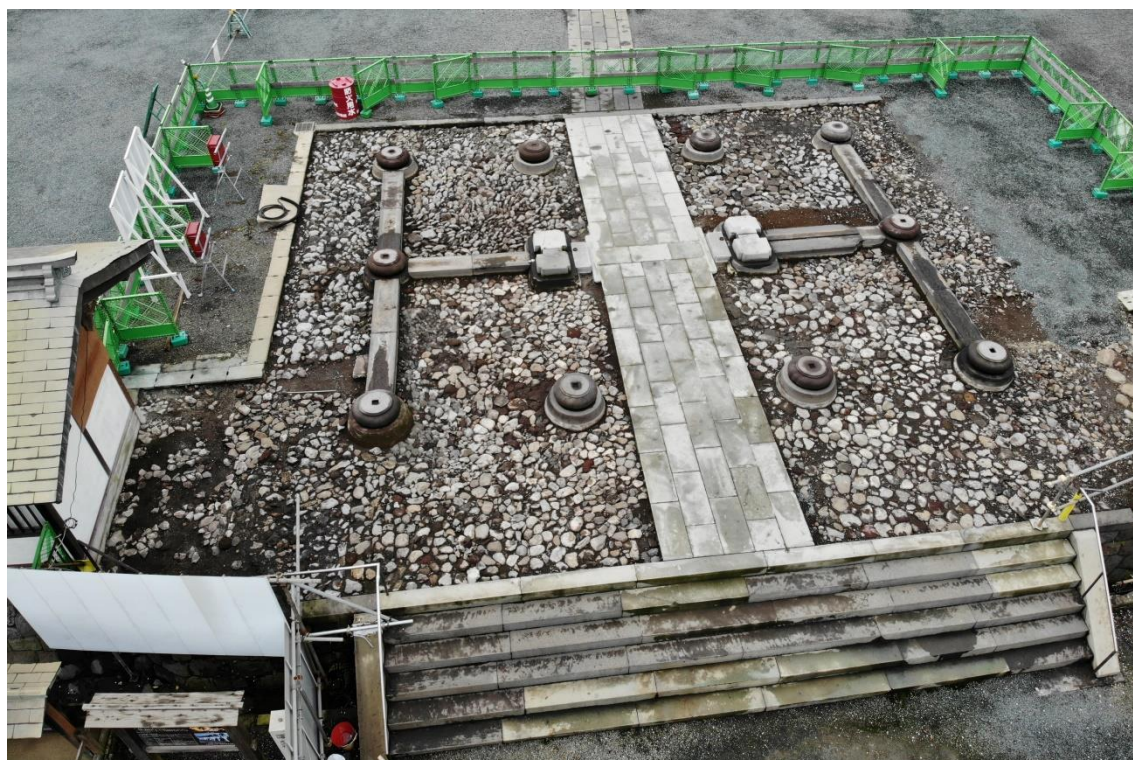
楼門 正面の石階段  
一部が白っぽい砂岩です。



三の神殿 正面 神殿 3 棟の石階段と三の神殿の雨落葛石の一部にも同じ種類の石材が使われています。



楼門 昭和18～20年修理時の後補の基礎石（緑色の箇所）  
石造唐居敷両脇の御影石の基礎石以外はすべて白っぽい砂岩です。  
正面石階段の一番下の段は砂利に埋もれているため詳細は不明です。



楼門 基礎石全景

## 2. 産地の考察

前回のコラムでは、造営時に使用された石材は、阿蘇山由来の安山岩や凝灰岩ではないかと推定しました。今回紹介している後補の石材は砂岩であると思われますが、どこから来た砂岩なのでしょう。

そういったことを考えている時に、ふと阿蘇神社の狛犬とその台座が目に入りました。以前のコラム（第28回）でも紹介したこの狛犬・台座は、苔の影響で赤っぽくなっていますが、どうやら白っぽい石材が使われているようです。そして、この白っぽい石は、楼門や拝殿周りで使用されている白っぽい砂岩と同じ材種のように見えました。

狛犬の台座には石工さんの名前が彫られており、熊本市河原町の石工さんでした。参考文献によると、熊本県内の石工さんは遡るとそのほとんどが天草の下浦出身かその関係者に行き着くと言われているそうです。下浦石工の系統の石工さんということは、下浦石も使用していたと思われますし、下浦石は砂岩です。そういう目で見ると、阿蘇神社の狛犬の苔で赤っぽくなった見た目が、下浦石で造られた天草の祇園橋や下浦神社鳥居（前回のコラム参照）と似ているようにも見えてきました。もしこの狛犬が下浦石ならば、楼門や拝殿周りで使用されている白っぽい砂岩も、下浦石か、少なくともその系統の天草の石材であるのではないのでしょうか。



阿蘇神社 狛犬

現在は工事が完了するまで移動されています。



楼門 参道石 アップ写真



狛犬台座 アップ写真

以上、昭和18～20年の工事で使用された、楼門の白っぽい石について紹介しました。今回の内容はまだ考察の段階ですが、この考察をもとに引き続き調査を続けていき、石材の由来を明らかにしていきたいと思えます。